

請願 第10号

受付 令和2年 8月24日

付託 令和2年 9月 1日

取手市内の全ての小中学校で少人数学級の実現を求める請願

紹介議員 細谷典男 小池悦子

・請願趣旨

緊急事態宣言による3月からの一斉休校後、移行段階で「3密」を避けるための分散登校や時差登校が行われました。少人数での授業は、児童生徒や教職員にとってゆとりある経験で、子どもからは「分からないところをすぐ聞けた」「手を上げやすかった」、教員からも「一人ひとりに丁寧に向き合えた」「やはり少人数がいい」という声が聞かれました。

学校再開後も、コロナ禍においては感染防止のために、人数の多いクラスは、大変苦労を強いられています。感染防止のための対策、狭い教室でどのように「密」を避けるか、又感染拡大を招いてはならないという精神的な負担など、児童生徒や教職員にとって大きなストレスになっています。

2011年に小学校1年生だけ1学級35人以下とする標準法改正が行われましたが、その後10年近く止まったままです。しかし、全国的に少人数学級を求める声は大きく広がり、多くの都道府県レベル、市町村レベルで独自に少人数学級を導入してきました。

更にこのコロナ禍で、早急に少人数学級実現を求める声が高まり、全国知事会、全国市長会、全国町村長会も「少人数編成を可能にする教員の確保」を文科大臣に要請するなど全国的な運動になっています。もちろん国が教職員の定数改善を図ることが急務ではありますが、自治体独自で一刻も早く少人数学級を実現してほしいのです。

取手市内の全ての小中学校で、「3密」を避ける少人数学級を実現し、子どものいのちと健康を守り、少人数で、豊かな学校生活が過ごせる環境をつくってください。

・請願事項

1. 子ども達のいのちと健康を守り、成長と発達を保障するため、取手市内の全ての小中学校で、「3密」を避ける少人数学級を実現すること。そのために教員増と教室確保のための予算を配置すること。

以上、地方自治法124条の規定により、請願します。

令和2年 8月24日

請願者代表

住所 取手市井野3364

氏名 新日本婦人の会取手支部

代表 山口 ひろ子 ほか1人

取手市議会議長 齋藤 久代 様